

11/3 (木) 茨城町マラソンサッカー大会を開催



町運動公園にて、茨城町マラソンサッカー大会が開催されました。平成16年に茨城町サッカー連盟設立30周年を記念し開催されたこの大会は、今年の開催で13回目。今大会には33チームが参加し、少年団父母チーム同士の試合や、中学生対社会人の試合など、さまざまな組み合わせで熱戦が繰り広げられました。世代を超えて、心からサッカーを愛する人たちが交流を深め、「茨城町サッカーファミリー」になりました。

11/17 (木) 茨城町食生活改善推進員が新たに20人誕生

町健康増進課において、7月下旬から約4か月間にわたり、茨城町食生活改善推進員の養成講習会が行われました。全8回の講義と調理実習で、「栄養・食生活」について学んだ20人の受講者は、最終日の17日に酒井副町長から修了証書を授与されました。

これからは「茨城町食生活改善推進員」の一員として活動を開始します。町の健康づくりの担い手として、保健師や管理栄養士と連携しての地域に根ざした活躍が期待されます。



11/25 (金) 認知症サポーター養成講座でチンドン花樹一座が寸劇



認知症について正しく理解し、認知症の方とその家族を地域で見守り支える「認知症サポーター」を養成する講座が25日に明光中学校で実施されました。

当日は明光中学校の生徒と教職員が同講座を受講。町社会福祉協議会の包括支援センターの職員から、認知症についての説明を受けました。今回の講座では町内のチンドン花樹一座が、認知症の家族を題材に寸劇を行い、認知症の症状と対応について演じました。講座を受講した生徒は「様子がおかしい人がいたら、自分も声を掛けてあげたい。」と認知症サポーターとして頼もしい感想を述べていました。

「様子がおかしい人がいたら、自分も声を掛けてあげたい。」と認知症サポーターとして頼もしい感想を述べていました。

10/19 (水) 茨城県水際線シンポジウム



酒沼の水辺環境を活かした地域づくりについて考える、水際線シンポジウムが旧広浦小学校で開催され、約300人が参加しました。

パネルディスカッションでは、市民団体や研究者、住民、町職員の代表など5人が登壇し、地域づくりについてそれぞれ意見を述べました。それらを踏まえ、茨城大学工学部の藤田昌史准教授は「水質浄化活動や農家民泊など、酒沼を活用した取り組みが多様化しているの、今後に期待してまいります。」と話しました。

10/28 (金) 新規就農研修生がネギの初収穫を報告

平成28年2月から町農業公社の新規就農者受入研修事業で研修を受けている村田鉄平さんが、10月にネギを初収穫しました。

この事業では、先進的な農家で栽培方法を学びながら、町農業公社で貸し出した研修圃場で作付けして学ぶ実学での研修も併せて実施しています。

今回は、春に苗を植えたネギを秋に収穫する秋ネギ栽培を実践したもので、初めて作付けしたとは思えないほど素晴らしいネギが収穫できました。今後は、周年栽培を実践するため、春ネギに向けて苗作りからスタートし、来春収穫を目指します。



きれいに皮を剥いたネギを持参して小林町長を訪問し、独立に向けて順調に研修が進んでいることを報告しました。

出荷までの流れ



① 5月に苗を定植しました。



② 除草作業や土寄せ作業は真夏の暑い中、行いました。



③ 10月下旬になってやっと収穫。トラクターでネギを掘り起こします。



④ 掘り起こしたネギを手作業で集めます。



⑤ きれいに皮を剥きました。



⑥ JA水戸予冷センターへ出荷しました。(写真は土付きのネギを出荷している様子です)